

令和 7 年 3 月 3 日

武蔵丘小学校 学校関係者評価委員会

委員長 白山 美晴

令和 6 年度 学校関係者評価アンケート結果について

令和 6 年 11 月に実施されました学校関係者評価アンケートの結果について、ご報告いたします。

アンケートの回答者数

	合計	内訳					
児童	181 名	6 年 97 名	5 年 84 名				
保護者	433 名	6 年 75 名	5 年 59 名	4 年 89 名	3 年 74 名	2 年 70 名	1 年 66 名
地域	32 名						

回答者数が多いほど信頼性の高いアンケートになります。ご協力ありがとうございました。

※ 以下、「A. とても思う」「B. 思う」を合計して「肯定的回答」と表記する。「C. あまり思わない」「D. 思わない」を合計して「否定的回答」と表記する。

◎全体

学校内での教育活動に関する質問において、児童は肯定的回答が 60%以上である。質問によって肯定的回答の幅はあるものの、概ね意欲的に楽しく学校生活を送っていることがうかがえる。保護者も肯定的回答が概ね 50%以上である。武蔵丘小学校の教育活動を理解し、好意的に捉えていることがうかがえる。

武蔵丘小学校の先生は意欲が高く、負担の大きい学校行事等においても、自身の負担軽減よりも児童と保護者の満足を考えている。先生のこの姿勢が、肯定的回答率の高さにつながっていると考えられる。高いからこそ、さらなる向上を期待している。

◎安全教育について（武蔵丘小学校 独自項目）

児童の 92.8%が交通ルールを守っていると回答している。保護者も 84.7%が子どもは交通ルールを守っていると回答している。児童は交通ルールを守ろうとする意識が高く、保護者から見ても多くの子どもが交通ルールを守っていると感じられている。学校が児童に対して安全に関する指導を繰り返し行っていることも、この高い割合に寄与していると考えられる。

しかし、交通ルールを守っていないと回答した児童が 2.2%、守っているか分からないと回答した児童が 5%いる。保護者の否定的回答も 13%あり、地域の否定的回答も 12.5%ある。武蔵丘小学区は、横断歩道の設置要望が通らない場所がいくつかあり、危険と思われるが安易に横断してしまう場所もいくつかある。子どもは大人、特に親が行っていることは正解だと認識してしまう。交通ルールを守る意識づけはもちろんのこと、児童も保護者も正確なルールを学び、保護者が交通ルールを守る姿勢を子どもに示す必要もあると思われる。警察や区に横断歩道の設置等を要望し続ける必要も、もちろんあるだろう。

◎児童 学習について

5 つの項目があるが、児童（5、6 年生）の肯定的回答は 75.7%～95.1%と高い。しかし、『学ぶことが楽しい』『先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している』『先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている』の項目では、5 年生の肯定的回答の割合が、6 年生より 5%以上低かった。これは、5 年生は「高学年」になり、学習内容の難易度が上がったことと関係があるように思われる。

『授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある』は肯定的回答が 95.1%と、とても高い。子ども同士の学び合いを大切にしていることがうかがえる。また、この項目の 5 年生の肯定的回答は 97.7%もあり、6 年生より割合が高い。工夫して学びを進めようとする 5 年生の先生の努力がうかがえる。

◎保護者 学習指導について

4 つの項目があるが、保護者（1～6 年生）の肯定的回答は 58.9～79.7%と半分を超えている。学習指導について概ね好意的にとらえているようだ。しかし、回答 E. 分からない、が 14.1～26.1%もあり、肯定的回答率が低い項目ほど、「分からない」の割合が高い。

保護者の肯定的回答が児童の肯定的回答よりも 15%以上低いことから、学習指導の様子が保護者に十分に伝わっていないように考えられる。児童が授業の様子を詳細に伝えることは難しいと思われるため、学校公開が保護者にとって主な情報源となろう。来年度は土曜授業日がなくなるため、学校公開も平日のみになると思われる。平日のみでは保護者の参観時間が減ると考えられるため、授業の様子等を家庭にどのように伝えるのか、さらに工夫が必要だと思う。

◎生活指導について

児童の 3 つの項目の肯定的回答は 80.7～92.8%。特に、児童の『先生に注意されたことは、理解できる』の肯定的回答は 92.8%と高い。先生方が丁寧に指導していること、先生との信頼関係がしっかり結ばれていることがうかがえる。保護者の『教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している』の肯定的回答も 83.6%あり、児童・保護者とも、学校のルールの共通認識が持てているようである。

◎学校行事について

児童・保護者それぞれに 3 項目の質問があるが、いずれの項目も肯定的回答は 80%を超えている。また、児童の肯定的回答割合よりも保護者の肯定的回答割合が高いことより、保護者から見ても、子どもたちにとって満足のいく学校行事になっていると思われる。さらに、地域の 84.4%が『学校行事の内容は充実している』に肯定的回答を選択しており良い行事が作られていると思われる。

行事の当日はもちろんのこと、準備や練習も非日常の貴重な経験である。友達や先生との意見のぶつかり、仲たがい、仲直り、折り合いをつける、出来なかった事が努力や友達の助けで出来るようになる、などなど、1 つの行事で多くの学びと成長がある。先生の働き方改革が推進され、負担軽減もしなければならないが、子どもたちの意欲や思いを大切に、時には保護者も手伝ったり地域の手を借りたりしながら、素敵な行事を作っていってほしい。

◎児童 中学に関する項目について

「中学」に関する項目の肯定的回答が全体で 40% 台しかない。『区立中学校に関する情報が提供されている』の肯定的回答は 6 年生は 60.8% あるが、5 年生は 28.6% しかない。『学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある』への肯定的回答も 6 年生は 54.6% だが、5 年生は 27.4% しかない。

5 年生は中学についての関心が低いとも考えられる。だが、**早いうちに中学の情報を得ることで、進学の不安は減り、興味もわくと思われる。**中学生ボランティアの来校を伝える、中学生の小学校訪問の際 5、6 年生合同で話を聞く、など、**5 年生にも伝える機会が増えたと、肯定的回答は増えるのではないだろうか。**

◎保護者・地域 学校からの情報提供について

紙媒体での情報提供についての評価は、保護者の「便りなどによる情報提供」への肯定的回答は 89.6%、地域の「便りなどにより、学校の様子が分かる」への肯定的回答は 84.4% と高くなっている。Web 媒体での情報提供についての肯定的回答も、保護者は 78%、地域は 62.6% と、それなりに高くなっている。**いずれかの方法で学校の情報は伝わっているようではあるが、保護者の 4.6%、地域の 9.4% は紙でも Web でも学校の様子が分からないと回答している。さらなる情報提供の工夫が望まれる。**

◎保護者 「分からない」という回答が多かった項目と、肯定的回答が低い項目について

保護者では、E. 分からない の回答が 15% を超える項目が 12 項目あり、20% を超える項目も 6 項目ある（注：保護者への質問は 34 項目）。「分からない」の回答を減らす工夫が求められる。

「学び舎」に関する 2 項目については、「**学び舎**」という言葉の理解が進んでいないため、「分からない」の回答が多い（約 30%）・肯定的回答が少ない（50% 未満）、という結果になっているように思われる。

武蔵丘小学校は「**烏山学舎**（**烏山中学校・烏山北小学校・給田小学校・給田幼稚園・武蔵丘小学校**）」に属している。「学舎」＝「**学び舎**」と認識していない保護者もいるであろう。もちろん情報提供を増やすことも必要だが、設問に分かりやすい説明や工夫が欲しい。

「キャリア教育」に関する 2 項目の肯定的回答は約 50% である。どちらも 6 年生の保護者の肯定的回答は約 70% だが、5 年生以下の保護者の肯定的回答は約 40～50% と、20% 以上の大きな差が開いている。目標・将来となると、やはり中学進学目前の 6 年生が主体となることは否めない。だが、**今の自分のために小さな目標をもつ、目標を明確にする事も「キャリア教育」であり、1 年生であっても各児童が毎学期「めあて」を決めているはずだ。**目標をもって学校生活をおくっていることを、学校はもっとアピールしてはどうか。「キャリア教育」という言葉に回答が引きずられている可能性もあるため、設問の工夫も必要だと思う。

おわりに

アンケートから様々な事柄を読み取ることができる。今後学校はさらなる指導の工夫を凝らしていくであろう。子どもたちがより良い小学校生活をおくるために、保護者も、学校の情報を積極的に受け取りに行くこと、安全教育を家庭でもすすめること、学校行事へ可能な範囲でお手伝いをするなどが必要だろう。子どもたちがより良い学校生活を送るためには、学校だけでなく、保護者の協力、地域の力添えが必要だ。すべての子どもが充実した楽しい学校生活をおくれるよう、「チームむさし」として共に取り組んでいきたい。